

令和5年3月15日

保護者の皆様

高槻市立磐手小学校
校長 丸毛 由美子

令和4年度 磐手小学校の取組み（学校評価）について

保護者の皆様には、今年度の本校の教育活動に対してご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、今年度の学校教育活動について、代表的な取組と成果や課題、今後の対応等を取りまとめましたので、お知らせいたします。今年度もコロナ下での教育活動を進めるにあたり、子どもたちの安心・安全を第一に考えて、工夫改善に努めてまいりました。今後も、学校教育自己診断の結果や学校運営協議会委員の皆様からのご意見を踏まえて、全教職員がよりよい学校づくりのために努力を重ねてまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

1. 学校教育目標・めざす子ども像

【学校教育目標】

- ◇ 自ら学び、ねばり強くやり遂げる力を育てる。
- ◇ 互いの人権を認め合い、仲間と共に協力し、自主的に行動する力を育てる。

《めざす子ども像》やさしく かしく たくましく なかまとともに育つ子

【第八中学校区】

《めざす子ども像》

- 自ら考え行動する子（自立）
- つながる子（共生）
- 未来を切り拓く子（チャレンジ）

2. 今年度の重点目標

(1) 安心安全な学校づくり ○安全教育・安全管理の推進 ○自分の命も他の命も大切にできる子どもの育成 ○考える授業における「わかりやすい話し方」「気持ちのよい聴き方」による居心地の良い学校・学級づくり
(2) 確かな学力（自立） ○考える力の育成。『考える授業』における「聞いて考えてつなげる授業」の実践 ○「主体的・対話的で深い学び」の研究授業 ○家庭学習の習慣化への取り組み
(3) 豊かな心の育成（チャレンジ） ○命の尊さに気づき、人を思いやる心を養う ○あいさつを大切にし、お互いを思いあえる子どもの育成 ○読書活動の推進（朝読書・読み聞かせボランティア等）
(4) 地域に開かれた学校づくり（共生） ○地域社会の一員として地域活動に主体的に参画できる子どもの育成 ○コミュニティスクール（学校運営協議会）の推進。地域と共にある学校への転換 ○ふるさとを愛しみみんなのために考動できる子どもの育成

3. 具体的な取り組み

(1) 安心安全な学校づくり

- 八中校区の重点目標の一つである安全教育（生活安全、交通安全、災害安全）においては、9年間を通して系統立てた「いのちを大切にする」安全教育に取り組んできました。校区で防災教育に関する交流を行ったり、関西大学社会安全学部の学生による出前授業を行ったりしました。特に防災については子どもたちが安全に安心して学校生活を営むことができるよう、地震 火災 不審者 水難等の避難訓練を行ったり、セーフティーボランティアさんとの交流会を行ったりして、地域ぐるみで安全確保に向けた取り組みを行いました。
- どの子どもも安心して過ごすことができる集団づくりに努め、組織的に生活指導の充実を図りました。また、お互いを思いやることのできる子ども

の育成を目指し、道德教育、人権教育、障がい者理解教育を実施しました。

(2) 確かな学力（自立）

- 八中校区では指導方法の系統性と連続性を研究するため、校区で「主体的・対話的で深い学び」に向かう授業研究を進めています。併せて校内でも学校全体で共通の指導方法を取り入れ、教員が互いに授業を公開するなどして子ども主体の「考える授業」について研究を深めました。子どもたちも上級学年の授業参観をし、学びました。この取り組みにより、子どもたちの学ぶ意欲が高まり、授業中の学びあいが豊かになり、学力向上にもつながりました。
- 4月に6年生を対象に実施しました全国学力・学習状況調査の本校の平均正答率は、国語、算数の教科・区分全てにおいて、全国平均及び大阪府平均を上回りました。また、無回答率も低く、粘り強く最後まで取り組む児童の姿勢が表れていました。
- すべての児童が見通しをもち、主体的に学ぶために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに努めました。
- 各種研修会を実施し、教職員の資質・能力（授業力、ICT、指導力、人権意識等）の向上に努めました。

(3) 豊かな心の育成（チャレンジ）

- どの子どもも安心して過ごすことができる集団づくりに努め、校内研修や校区研修を行う等、組織的に道德教育、人権教育、障がい理解教育の充実に努めました。
- 児童会が主体的に学校の一員として活動できるクラブや委員会活動の充実に図りました。
- 今年度は様々な職種に就かれている方々にお越し頂き、6年生のキャリア教育のための出前授業を行って頂きました。
- 「たかつき安全ノートを活用したり、関西大学社会安全学部の学生による安全に関する出前授業を行ったりして、安全教育（生活安全、交通安全、災害安全）の充実に努めました。

(4) 地域に開かれた学校づくり（共生）

- 今年度、八中校区は「コミュニティ・スクール」のモデル校区として取り組みを推進して参りました。多くの方々に「チームエイター」としてご参加いただいたこともあり、子どもたちも改めて磐手のまちの魅力や地域の方々のあたたかさに気が付いたのではないかと考えています。ま

た、たくさんの場面で保護者・地域の方々と一緒に学ぶ機会を得ることができたことは、子どもたちにとっても財産になると考えています。

○各学年6年間の教育課程に基づいた取り組みの中に、地域の方々が参画できるシステムを構築し、100名以上のチームエイターさんに、学校にお越し頂き、共に教育活動に参画していただきました。

○地域行事との連携においては、「ふるさとふれあい祭り」や「クリーンキャンペーン」に、たくさんの教職員や児童が参加しました。

4. 今後の改善方策等

(1) 安心安全な学校づくり

学校教育自己診断の児童アンケートでは、「クラスの居心地がよく、楽しい」が86.2%。学校生活が楽しいが89.0%の結果となりました。今年度はコロナ禍において実現可能な範囲で、できるだけ多くの学校行事に取り組んで参りました。その中において準備や練習など、児童が、行事を成功させるために仲間と力を合わせて頑張る姿を、多くの場面で見ることができました。「がんばること」や「力を合わせること」の楽しさや達成感など価値を見出した結果、上記の項目において肯定的な回答につながったのではないかと考えています。めざす子ども像「やさしく かしく くたくましく 仲間とともに育つ子」でも示すように、仲間との関わりを通じて、たくましく成長するよう、今後も指導に努めて参ります。

また、「学校では命の大切さ、社会のルールやマナーについて学ぶ機会がある」では、89.5%の児童が、そして、「学校では自分自身や火災が起こった場合どう行動したらよいかを教えてもらっている」においては、80.0%の児童が肯定的な回答をしています。今後もさらに児童の安全安心な学校を目指して、取り組みを進めて参ります。

(2) 確かな学力（自立）

全国学力学習調査の質問紙では、「自分には良いところがあると思いますか」の問いに80.6%の児童が肯定的な回答をしました（昨年度は73.1%）。また、学校教育自己診断の児童アンケートでは、「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしているか」という質問に対する肯定的な回答は、85.7%と、「自分は授業に積極的に取り組んでいる」に対して、81.8%の児童が肯定的な回答をし、昨年度より向上しました。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強している」という質問に対して、肯定的な回答をしている児童が、63.7%と、若干低いところが気になり

ます。今後は、児童の自尊感情を育む取組を行うと共に、「家庭学習の手引き」を参考に家庭学習の習慣と、最後までやり遂げる粘り強さの育成に向けて、取り組みを進めていきます。また、よりわかりやすく楽しい授業づくりを進めるため、授業研究や研修を充実させて参ります。

(3) 豊かな心の育成（チャレンジ）

全国学力学習状況調査の質問紙では、「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますかの質問に、63.7%の児童が肯定的な回答をしています。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問には97.5%が肯定的な回答をしていました。また、学校教育自己診断アンケートにおいて、「お互いの考えや気持ち（人権）を大切することを学ぶ機会がある」との質問に対して、児童では86.6%、保護者では74.3%が肯定的な回答でした。道徳や特別活動、総合的な学習等さまざまな教育活動において、人権を大切にする意識が子どもたちに育まれてきたことと思います。今後も引き続き豊かな心の育成に努めて参ります。また、「先生はいじめなどで困ったときに、真剣に対応してくれる」という問いに対して、84.7%の児童が肯定的な回答でした。また、「ご家庭では、いじめの問題について話す機会がある」という問いに対しては76.5%の保護者の皆様より肯定的な回答をいただいています。今後も、計画的にいじめの防止について考える機会を設定するとともに、いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくりを行うとともに、定期的・複数回の生活アンケート実施、個人面談の実施、校内研修の実施、早期発見・事案対応のマニュアル実行等を行って「いじめは絶対に許さない」という意識を強く持ち教育活動を行って参ります。

(4) 地域に開かれた学校づくり（共生）

学校教育自己診断アンケートにおいて、「自分の住んでいる地域が好きだ」では90.3%の児童が肯定的な回答をしています。また、「学校では地域の人たちから教わる機会（出前授業など）がある。」では、82.0%の児童が肯定的な回答でした。「チームエイターについて知っている」が49.3%。「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」が67.7%でした。また、今年度より、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）を推進していく中で、様々な教育活動に、保護者・地域の皆様のご協力をいただきました。「社会に開かれた教育課程」「地域と共にある学校づくり」を目指し、児童が地域の一員として参画し、課題を協力して解決する力を身につけることができるよう、今後も取組を進

めて参ります。保護者や地域の協力もいただきながら、教職員一同力を合わせて、児童の力を育てていきたいと考えております。今後ともご協力のほど、よろしくお願い致します。また、学校教育活動サポーターとしてコミュニティスクールの活動を支えていただいている「チームエイター」の方々の存在について、今後もその意義や活動などを伝えていくことが必要であると考えております。これからも、教育活動を学校の中だけにおさめることなく、社会の課題に目を向け、主体的に解決をしていくことができる教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。児童一人ひとりが、自分自身もまた地域の一員であり、社会を構成する一人だと自覚していくことにつながるよう、取り組みを進めていきます。

2月中旬に学校運営協議会を開催し、1年間の取組と、学校教育診断アンケートの結果をもとに、次のようなご意見をいただきました。今後に活かして参ります。

- ・児童の成長を感じる取組の継続に期待する。
- ・コミュニティ・スクールを活用し、地域や保護者と協力し取組を進めていく。
アンケート結果から、周知は十分でない。学校からだけの発信ではなく、広報チームなどを作り広報活動を充実させ、取組の発信が必要である。
- ・チームエイターの登録者は多いと感じている。関わってもらっているチームエイターへのフィードバックは必要。手ごたえの共有は次年度へと続くはず。
- ・防災を含む安全教育への関心については、学年が上がると下がる傾向がある。これを普通と思ってあきらめずに小学校から中学校へしっかり取組のバトンを渡してほしい。